



校長室だより

自立に向かって「自分から」

学校と家庭・地域を結ぶ架け橋通信

第18号 令和4年12月23日

小美玉市立美野里中学校

「希望」について考える

皆さんは、今、どのような「希望」をもっているでしょうか。
人が生きていくときに、大切になるのが「希望」だと思います。

「希望」という言葉には、人の視線を上に向かせる響きがあります。明るく力強いイメージがあります。でも、「希望」は待っていて、向こうからやってくるものではありません。自分で創り出し、感じ取り、叶うように働きかけていくものです。
こんな言葉があります。

努力する人は希望を語り、怠ける人は不満を語る 井上靖（小説家）

不満ばかり口にする人に、明るい明日は感じられません。一步踏み出し、努力していくところに「希望」は見え始めます。ここが大切です。自分なりにやり切るならば、「希望」が叶っても叶わなくても、「やり切った」という事実は残ります。たとえ、「希望」が叶わなくても、立ち直る勇気に結び付いたり、新たな「希望」を見つけ出したりする「種」になります。

さらに言うと、「希望」は人それぞれ違うものかも知れませんが、「希望」にも質があるように思います。「希望」は、年齢を重ねるうちに、より崇高なものになっていくべきものだと思います。

だんだん「自分のこと」から「周りのこと」や「普遍的なこと」に目が向いていくべきなのだと思うのです。それが、知的生命体として、他の動植物の運命さえ左右する英知と力をもった人間の本来のあるべき姿なのではないでしょうか。人間は物質だけではなく、精神こそ進歩させるべきです。これは、核兵器や地球環境の問題にも関わることです。



だいぶ大きなことを言ってしまいましたが、テレビを見ていて、もしあの戦場に自分がいたらと思うと、単純に「もうやめませんか」という気持ちになってしまうのです。他人の「希望」を奪う権利は誰にもありません。

私にも、身近に「希望」があります。それは、「子供たち」です。

子供たちが、悩みながらも、ひたむきに頑張っていたり、友達同士いたわったり、励まし合ったりしている姿を見ると、「この子供たちは、どんな立派な大人になるんだろう」「どんな素晴らしい社会をつくってくれるのだろう」と思い、「希望」が湧いてきます。

その子供たちに、これからも素晴らしい「希望」をもち続けてほしいと、心から願っています。どうぞ良いお年をお迎えください。